

2023 年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時	2024 年 1 月 29 日(月) 13:30~15:30	場 所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 N タワー1 階バンケット実習室	進 行	原田
				議 事	栞原
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・今関 真治 (千葉県モノレール株式会社 総務部長) ・小亀 さおり(NPO 法人 Aqua Dream Project 代表) ・原田 正隆 (千葉市民活動支援センター コーディネーター) ・横山 隆 (株式会社千葉京成ホテル 京成ホテルミラマーレ 総支配人) ・岩崎 正佳 (両総観光株式会社 成田営業所 営業課 課長) ・木元 明佳 (ANA スカイビルサービス株式会社 総務人事部 人事課) <p>順不同記載</p> <p><学校職員> *オブザーバー参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・矢口 博士 (校長/本部長) <li style="width: 33%;">・古川 博文 (副本部長) <li style="width: 33%;">・北 和樹 (学務室 室長) <li style="width: 33%;">・樫村 博恵 (学務室) <li style="width: 33%;">・河下 和浩 (就職室) <li style="width: 33%;">・栞原 和希 (教務室) 				
議題	<p>1. 2022 年度重点方針</p> <p>2. 2022 年度自己評価</p>				
議事録	<p>1. 前年度の委員からの取り組み</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新コース検討 (観光科トラベルアウトドアコース、ホテル科国際ホテルコース) ・保護者等への学校活動の伝達 (課外活動の同意書、行事と費用の使用状況など) ・検定受験啓蒙策については乏しいままとされているため引き続き次年度の課題とする。 <p>進行役を委員の中から原田氏を選出し、学校関係者評価委員会を開会した。</p> <p>2. 2022 年度重点的に取り組むことと自己総評</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学校</p> <p>(1)重点的に取り組むこと</p> <p>22 年度はデジタル化を前進させ、アナログな対面コミュニケーションも疎かにせず、専門学校として学習成果にも拘り続ける。</p> <p>(2)自己総評</p> <p>デジタル化を前進させることについては、IT 推進チームを設けて勉強会の実施、導入した MyiD を検証し改善が図れた。一方、マスクを着用しながらも授業や個人面談等対面実施、また学園の中でも他校より先行して宿泊行事や海外研修を執行し、学生満足度へも影響があった。</p> <p><重点数値目標に対しての結果></p> <p>入学者数 220 名に対して 193 名 1 年生中退率 6.5%に対して 5.8%</p> <p>授業満足度 70%以上に対して 81% 入学満足度 70%以上に対して 82%</p> <p>卒業生就職率 95%以上に対して 96%</p> <p>コロナ禍を 2 年経てワクチン接種などの対策が取られたことにより、学校活動も感染対策をとりながら海外研修、宿泊行事や校外実習などを徐々に実行できるように努めてきた。結果、教育活動、学生支援、教育環境などの項目において前年よりポイントを上げた。しかし、観光分野の学生募集状況については、引き続き厳しい状況にある。今後は、企業実習や就職実績など業界情報の周知に努め、募集回復を図る。</p>				

3. 2022 年度自己評価

(1) 教育理念・目標（評価内容×5）

学校

人材ニーズを捉えるため教育課程編成委員会も年を重ねて充実してきた。また学校を訪ねてくる卒業生からも聞き取りをして参考にしている。

専修学校の特色でもある学生の希望する職種への実習斡旋へ注力した。

学校関係者委員からの質問・意見

- ・委員：インバウンドが回復してくると英語圏ではない国から訪れてくる。この学校では観光の学校として英語以外の言語も学べることは強みだと感じるではないか
- ・委員：新コースとして観光科トラベルアウトドアコースや国際ホテルコースは検討から決定までどのくらいの期間をかけたか。

学校：検討を始めてから1年で募集を開始した。

アウトドアは観光科の魅力回復策として、また観光資源が豊富な千葉を生かして観光人材を育成したいという思いからで、国際ホテルは語学集中科が募集停止になる時期と合わせて、語学ニーズが入学検討者や企業からも高まってきたため新コースに至った。

(2) 学校運営（評価内容×8）

学校

学校制度やルール等が変更になった際に規定など関連する全ての文書が変更されていないことがある。

21年度に試験的に導入した出欠管理システム(MyID)を学校全体で導入することとした。

コロナにより制限やルール変更が度重なり、学科や教員によって学生対応に差が出てしまった。

学校関係者からの質問・意見

- ・委員：コンプライアンスについて、何か事が起きた時の初動対応がとても大事になるのでしっかり準備しておく必要がある。

学校：安全を第一とした行動指針やルールを教職員全員が理解し、講師や学園に関わる人たちにも周知していく。学園の危機管理委員会にも共有していく。

(3) 教育活動（評価内容×14）

学校

コロナ禍の制限が緩和され、各科で企業や行政との連携カリキュラムを実施することができた

職員のスキルアップのためにオンライン受講システム（Schoo）を取り入れた

学校関係者からの質問・意見

- ・委員：授業改善アンケートをとった場合にはフィードバック等、結果を伝えることが大切。

学校：個々に結果を渡しているが面談までは全員に行えていない。

- ・委員：Schoo の利用度は高いのか

学校：個人差がある、全体的には利用度は高いとは言えない(23年度は希望者のみ継続へ変更)

(4) 学修成果 (評価内容×5)

学校

21年度は学科によっては求人数が少なく学科の業種を超えての就職先斡旋が行われていたが、22年度は学生が目指す業界への就職先斡旋ができるように回復した。

学校で開催ができない試験が一定数あったため受験率が下がった。合格率が全国平均より低い検定もあったため補講対策を強化したい。

企業実習の目的や条件等については、学生の環境も考慮しながら進めている。

学校関係者からの質問・意見

なし

(5) 学生支援 (評価内容×11)

学校

コロナ明けで就職や課外活動の制限が徐々に解除され、企業実習の協定書の整備や高校とのキャリア教育の接点も増えてきた。

学校関係者からの質問・意見

- ・委員：職員のアンケートを評価項目に盛り込むのはどうか。お客様のために従業員が気持ちよく仕事をすることは大切。
- ・委員：アンケートの実施方法について、個人特定がされない工夫や結果の見える化をおこなっているか。

(例：①無記名実施 ②3名以下は実施しない ③結果による改善や掲示等)

学校：全学生を対象に無記名で行っているが、少人数学科の対応は行っていない。教職員の個人目標設定にも関連している。入学満足度を上げる(常に見直しを行う)ために実施し、現状見える化は行っていない。アンケート実施結果が反映されていることがわかるよう、どのように見える化を実施するか検討。

(6) 教育環境 (評価内容×5)

学校

各教室の映像表示をプロジェクターからモニターへ、照明をLEDへ変更。

学校関係者からの質問・意見

委員：自然災害増えていく中で、人命救助という観点は大切。人命救助を教育の中に取り入れるといい

委員：防災緊急初動マニュアルとはなにか、また食料品の備蓄はあるのか。トイレは一番の問題のため用意が必要ではないか。

学校：地震を一番として火災、自然災害を想定したもの。備蓄(アルミブランケット/食事/水)は、職員・学生分含めて準備あり。トイレの用意はないので準備する必要がある

委員：ここ数年、安全管理項目が50点台となっているがどうか。

学校：訓練は年1回あるが、その日に居ない講師等まで周知が至っていない。

委員：危機管理で、海外は地震がないケースがあると思うので、

自ら経験していないとイメージができないため、優しい日本語等での案内が必要ではないか。

家族との連絡ツールの案内等も伝えてあげられるといいのでは。

学校：マニュアルにはふりがながあるが、学校として整備していく必要あり

(7) 学生の受入れ募集（評価内容×6）

学校

コロナにより多大な影響を受けた観光業界への不安を払拭するため、学校と併せて業界情報の提供を行った。

学校関係者からの質問・意見

なし

(8) 財務（評価内容×5）

学校

各部署、各学科の責任者が四半期ごとに予算執行状況を管理しているが、年初から大きな予算のブレがなく、増減が出た場合にも理由を把握できている。

コロナ前に比べて日本人、留学生とも在籍数が減少している。

学校関係者からの質問・意見

なし

(9) 法令等の遵守（評価内容×4）

学校

自己評価委員を各部より選出し、様々な視点から意見を出し合うことで、新たな課題や気づきを得ることができた。

学校関係者からの質問・意見

委員：個人情報の取り扱いや法令順守はとても大切。

学校：総務、その他連携箇所とは必要最低限、法令順守を行い適正な運用を実施。

更に適正な運用を実現するため、書類やシステムの精査・刷新を実施していく。

(10) 社会貢献・地域貢献（評価内容×3） 前年比得点変動なし

学校

コロナ禍以前に行っていた行事・ボランティアを徐々に再開することが出来た。

地域貢献や社会貢献の項目については以前進展がない状態であり、学校施設を利用や講師の派遣実施等を今後の課題として検討していく。

学校関係者からの質問・意見

委員：現状、学内のみで行っている行事（スピーチコンテスト、仕事の学び場等）も、チラシ等でお声がけ頂ければ協力できる可能性があるためお知らせ頂きたい。（地域貢献や協力が出来る可能性あり）

(11) 国際交流（評価内容×4）

学校

国際室は新たに西日本地区等の進出を行えた。文化等の違いを理解しながら感染症予防を行えた。

学校関係者からの質問・意見

委員：留学生の学生生活指導は、多文化共生で例えばイスラム教徒のお祈りする場所等の配慮はあるのか。

学校：以前一室をお祈りの場所で設けていたが、現状は不明。食事については案内していない。

学校として整備していく必要あり

学校関係者評価委員会を閉会した。

以上